

アジア・アフリカ学術基盤形成事業セミナー実施報告書

平成 21 年 8 月 27 日

独立行政法人日本学術振興会 殿

<コーディネーター

霊長類研究所・古市 剛史>

セミナー実施報告書を次のとおり作成しましたので提出します。

セ ミ ナ ー 名	カリンズ森林におけるチンパンジーと植生に関するセミナー	
開 催 期 間	平成 21 年 6 月 17 日、平成 21 年 7 月 14 日～平成 21 年 7 月 18 日 (5 日間)	
開 催 地	ウガンダ共和国カンパラ市、ウガンダ共和国ブシェニ県カリンズ森林保護区	
日本側責任者	氏 名	橋本 千絵
	所属機関・職名	京都大学霊長類研究所・助教
開催責任者 (※日本以外で開催の場合)	氏 名 (英 文)	ホセ ムハングジ (Hosea Muhanguzi)
	所属機関・職名 (英 文)	マケレレ大学教育学部科学技術教育部門 (Makerere University School of Education, Department of Science and Technical Education)・部門長(Head of Department)
セミナーの概要及び成果		
<p>【概要】 カリンズ森林におけるチンパンジーにおいて重要な食物源であるイチジク属について、過去の研究でわかったことについてレビューし (6 月 17 日のセミナー)、さらに 7 月 14 日から 18 日にかけてカリンズ森林において、イチジク属のフェノロジーについて実習を行った。</p> <p>【成果】 カリンズ森林のチンパンジーにとって、イチジク属の果実および若葉は重要な食物となっている。イチジク属のフェノロジーは、チンパンジーの行動や社会に大きく影響を与えていると考えられる。本セミナーでは、まずこれまでの研究でわかったことをレビューし、植物学が専門のウガンダ国の研究者にイチジク属のフェノロジー調査の実習を一緒に行うことによって、本事業の目標である Pan 属の環境適応戦略を知る上で有効なデータの収集法などを討議した。事業初年度にこのような実習を行うことは、情報の共有や今後の研究の展開において非常に有益と考えられる。</p>		

○参加者

① 「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 4 人

（「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。＜A：セミナー経費より負担。B：共同研究・研究者交流経費より負担。C：本事業経費からは負担しない。＞）（形式任意）

1－4 A：橋本 千絵（京都大学霊長類研究所・助教）

1－5 A：辻 大和（京都大学霊長類研究所・助教）

4－1 C：Hosea Muhanguzi（ホセムハングジ，マケレレ大学教育学部科学技術教育部門・部門長）

4－2 C：Perpetua Ipulet（パペチュアイプレット，マケレレ大学理学部植物学部門・講師）

② 「参加研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 1 人

（ア）（リスト不要）

○日程及び課題（セミナー関連資料があれば添付すること）

2009年6月17日（水）



14:00－14:30 カリンズ森林におけるチンパンジーと植生との関係

（京都大学霊長類研究所・助教 橋本 千絵）

カリンズ森林におけるチンパンジーと植生の関係について、これまでの研究の概略を説明した。

14:30－15:20 カリンズ森林におけるイチジクの分類について

(マケレレ大学理学部植物学部門・講師 パペチュアイプレット)

カリンズ森林のイチジクの分類について、これまでの研究から得られた成果を発表した。

15:20－16:10 カリンズ森林におけるイチジクのフェノロジーについて

(マケレレ大学教育学部科学技術教育部門・部門長 ホセムハングジ)

カリンズ森林のイチジクのフェノロジーについて、これまで得られた結果をレビューした。

16:10－17:00 総合討論

(司会 京都大学霊長類研究所・助教 辻 大和)

今後の共同研究の進め方を含めて、討論を行った。

2009年7月14日(火)～18日(土)

カリンズ森林において、イチジク属の樹木について、モニター樹の設定を行い、実際に一緒にフェノロジー調査を行い、データの内容やデータ収集の仕方について検討を行った。また、現地調査員のトレーニングを行った。

